



概要

『たくさんの積み木を使った、感動の街づくり』

つみ木の遊び合いが参加者のライブの積み木創作で子ども達相互の助け合い、思いやりに発展、プログラムの後半、遊び合いから大切なことを学ぶ学びあいに発展し、未来の街が出来上がる。くり返しとことん遊びこむ。

「つみ木遊び合いで感受性」を育む：3種類の個性の違うつみ木〔台形、四角形、長方形〕+空間〔すき間〕とたくさんのつみ木2万個使い共同制作。

「つみ木遊び他は、子どもにとっては建築であり命を育てていることと同じ」

高く積み上げ、崩れないように辛抱する心や、丁寧さ、共同で積み上げることの喜びをつみ木遊びの中で学ぶ。一つ一つの「作品」作り上げる中で、工夫、感受性を高められる。

『どんな子どもでも、その場ですぐに始められて、遊んで楽しめるのがつみ木の魅力』

樂つみ木ワークショップ〔遊び合い〕はつみ木シャワーから始まる。約2万個のつみ木を横に川の字に寝そべって子ども達に、遊びさせるようにかけていくと、ヒノキの香りに包まれ、緊張がほぐれていく。使用するのは当舎が考案・制作した『樂(らく)つみ木』台形、四角形、長方形の3種類、基尺:3cm。シンプルな形状の積み木出、5分の1

ミリ単位。子ども達の創造性を刺激する工夫が施されている。

樂つみ木ワークショップは単なる、つみ木遊びの領域を超えて、もちろん建築でもあり、幼児教育現場においては、子ども達の発達心理、内面、社会性の育ちを客観的に見ることができ、先生方から評価されている。

つみ木のまちが未完成の完成を迎えたときに、会場を暗転して、積み木の中に裸電球を通していく。ライトアップしていく。自分達の作品に光と影が合わせて新たな命が吹き込まれ、子ども達から大歓声が上がる。このとき始まる前の子ども達とは違う「新しい人格」を手に入れた瞬間もある。小さなアーチスト、芸術家の誕生なのです。積み木の最後はやさしく抱きしめて崩し『感謝の表し方』を学ぶ。

樂つみ木ワークショップの子どもと樂つみ木による建築過程、作品を紹介いたします。

尚、この活動は1998年樂つみ木を考案したときから始まりました。また2011.3.11以降、東北沿岸部の子ども達を応援、支援すべく『樂つみ木』をプレゼント、及び実際に車にたくさんのつみ木を積んでワークショップも継続的に現地と連携を取り活動している。

応募部門

組織部門

国／都市

日本全国・イギリス(ロンドン)

応募者

木楽舎つみ木研究所

チーム・メンバー

木楽舎つみ木研究所スタッフ4名

全国各地に樂つみ木活動をおこなう仲間がいます。(樂つみ木特使)

北海道、青森、岩手、宮城、福島、群馬、神奈川、長野、山梨、東京、静岡、愛知、岐阜、大阪、兵庫、愛媛、香川、広島、山口、佐賀、福岡、熊本、鹿児島、沖縄。

参加した子どもの年齢層

幼児～高校生、大学生

参加した子どもの人数

年間50回程度、8000人から10,000人。

活動期間

平成8年10月～現在

成果物と評価

2006年 イギリス ロンドンの5つの小学校で樂つみ木ワークショップを行う

テレビ朝日、民協教の「夢キラリ」全国放送

2009年 こども環境学会 デザイン賞受賞

経済産業省 キッズデザイン賞

アートミーツケア学会 実践報告

2011年 グリーン購入大賞 優秀賞受賞

2013年 ソーシャル・プロダクツアワード 優秀賞受賞

著作物：樂つみ木広場ワークショップ指導者ガイドブック

図版：活動の様子や成果

樂つみ木の3つの形

すべてに共通している事は、3cmをモジュールの基準にしている。

■台形 美術的性質 造形的美しさがあり、上下、縦横にすることでも変化が求められる



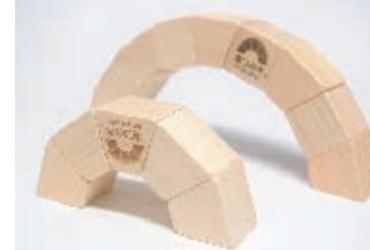
■四角形 算数的性質 変化しない普遍的な形。形が変化しないことで数的絶対要素



■長方形 建築的性質 縦、横にすることで劇的な形、数的な変化が求められる



■支え合うつみ木の原理の重要なポイント



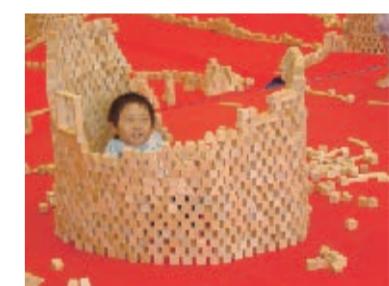
丸・円柱・三角はないけれど（通常つみ木にはある。）3つの種類の性格を子どもたちは、自ら発見し、丸もできる円柱より美しいものを作り出し、やがて三角的な造形の代表的なピラミッドを出現させてしまう。2次元的なピラミッドも3次元的なピラミッドもある。

小さなつみ木が生んだ巨大建物



始まりは1個の積み木から…

積み木に囲まれて



たくさんのつみ木を使った感動の街づくりへ

建物をつなげる街づくりの多彩な形



樂つみ木広場(名古屋ホストライオンズクラブ)
2009.11.23(オアシス21)



小学校体育館 一人の積み木からみんなの積み木に



丸の内キッズフェスタ (東京国際フォーラム) 2007.8.14~16